

令和 6 年 5 月 29 日現在

機関番号：14301

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2021～2023

課題番号：21K12581

研究課題名（和文）東南アジア大陸部少数民族は言語文化アイデンティティをどのように維持発信しているか

研究課題名（英文）Study on the Initiatives of Ethnic Minorities in Mainland Southeast Asia for Preserving and Transmitting their Linguistic and Cultural Identities by Scrutinizing both Published and Digital Materials.

研究代表者

木谷 公哉 (Kitani, Kimiya)

京都大学・東南アジア地域研究研究所・助教

研究者番号：50324687

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,200,000円

研究成果の概要（和文）：各分担者・研究協力者から寄せられた資料情報、特にミャンマー少数民族チン族・シャン族の事例を元に、課題として浮かんできた母語と使用文字の乖離、インターネット上の情報源保存について対応可能な入力フォーマットを策定し、Googleフォームを活用したDB入力システムを開発。「東南アジア逐次刊行物総合目録データベース第3版」（<https://sealib.cseas.kyoto-u.ac.jp/db/>）として2023年9月に公開した。また、『東南アジア逐次刊行物の現在』第2篇（2024年度刊行予定）においては、東南アジア大陸部少数民族の出版状況を明らかにし、少数民族の言語・文化的動態を明らかにした。

研究成果の学術的意義や社会的意義

国家統合や地域開発により文化の平準化が進行する東南アジア大陸部で、少数民族は自身の言語と文化アイデンティティをどのように維持・発信しているのか、これまで見過ごされていた少数民族の言語と文化の動向を、データベース「東南アジア逐次刊行物総合目録データベース第3版」を用いて把握し明らかにした。その結果は、2024年度に刊行予定の『東南アジア逐次刊行物の現在』第2篇で詳細に述べられている。技術面では、その対象の多様性に反してデータセットが小規模なために困難であった地域研究の定量分析において、新たな分析手法を開発し展開することができた。これは少数民族の言語と文化の維持と発信への理解を深める一助となろう。

研究成果の概要（英文）：Based on the information received from the research partners and collaborators, especially the case studies of the Chin and Shan ethnic minorities in Myanmar, we developed an input format and system using Google Forms that can deal with the gap between the native language and characters, and that is used for preservation of information sources on the internet. The database was released in September 2023 as the 3rd edition of the Southeast Asian Periodicals Database (<https://sealib.cseas.kyoto-u.ac.jp/db/>). In addition, we are to publish the second edition of "Periodical Publications in Contemporary Southeast Asia" (in FY2024), where we clarified the publication status and the linguistic and cultural dynamics of mainland Southeast Asian ethnic minorities (the online version has been open to the public via our portal site (<https://sealib.cseas.kyoto-u.ac.jp/>)).

研究分野：情報学

キーワード：逐次刊行物データベース 少数民族言語

## 1. 研究開始当初の背景

逐次刊行物は地域研究における重要な一次資料であるが、東南アジア諸国の図書館機関ではこれら資料を系統立てて蔵書化していることがほとんどなく、1タイトルの雑誌の巻号が複数機関に散在することが常態化している。またそれらのカタログングの際のカテゴリライズ方法が機関ごとにバラバラで統一されていないことも多く、目当てとする資料を機関横断的に検索するのが困難であった。この問題を解決するため、報告者は研究分担者として参加した2度の科研費プロジェクト「インドシナ3国逐次刊行物データベースによる機関横断型ネットワーク構築の研究」(基盤研究(C) 2014-2016年度、代表:大野美紀子)「逐次刊行物データ

図1 東南アジア逐次刊行物総合目録データベース：インドシナ版

ベースを利用したインドシナ3国出版思潮の研究」(基盤研究(B) 2017-2020年度、代表:大野美紀子)において、日本国内所蔵の情報を整備するとともに、ベトナム・ラオスから提供された資料情報を統合した「東南アジア逐次刊行物総合目録データベース：インドシナ3国版 (<https://info.cseas.kyoto-u.ac.jp/db/sealib/>)」を構築・整備してきた(図1)。

本研究では、東南アジア大陸部諸国(ベトナム、ラオス、タイ、ミャンマー)の少数民族とその言語に目を向けた。国民意識の統合政策や地域開発により言語・文化的平準化が進む一方、少数民族の多くが母語を使用することで自己のアイデンティティ維持・表出を図っている。また、彼らが発信する情報は、言語文化、自己認識と表象、伝承や歴史認識を記録した貴重な研究資料である。しかし、こうした少数民族の多くは、居住エリアが国境線で分断されていたり、発信の自由が制限されており、維持・表出活動に関する情報も断片的で、その全体像は把握しきれなかった。

特に紙媒体メディア(新聞、雑誌など)は当該民族が居住する地方の狭い地域社会内でのみ流通するため、発行部数も少なく、また長期的に刊行・発信されることもなく、そのほとんどは入手不可能あるいは絶版や消失の恐れがある。デジタル媒体は、ゲリラ的に発信されているものが多く、ある日突然システムの閉鎖などによって失われてしまう恐れもある。

## 2. 研究の目的

本研究の目的は、多くの少数民族が発信する多様なメディア上の資料をメタ情報に編集し、少数民族およびインターネット上の発信情報を加味した独自のメタ情報項目の策定し、これらを網羅した多言語対応の『東南アジア大陸部少数民族語資料目録データベース』(以下、DB)を構築し、これに収録すること、このDBを研究ツールとして、東南アジア大陸部の少数民族の言語別・年代別・発行者別情報発信の状況を把握できるようにすることであった。

## 3. 研究の方法

本研究では、まず、東南アジア大陸部少数民族の言語・文化の逐次刊行物(インターネットメディアを含む)の発信情報を網羅的に集約し、従来の「3国版」のデータと統合した「東南アジア大陸部少数民族語資料目録データベース」を開発・公開した。さらに、DBで用いられているメタ情報(書誌情報)自体をデータとして、少数民族の出版状況を俯瞰的に把握できるようにし、彼らが固有の言語(母語)を用いて民族アイデンティティをどのように維持発信しているのか、言語・文化的動態の実像を把握する試みを行った。さらに、「メタ情報としての資料情報活用」と「言語文化動態研究」を統合し、地域研究における新たな方法論を構想した。

期間中(2021-2023年度)本研究が取り組んだ課題は、「少数民族・言語の逐次刊行物の所在情報(およびインターネット上のデータ)を扱うことのできる資料情報フォーマットの策定」「DB開発」「DBに格納したデータの分析」であった。そこで、これに向けた体制として「DB構築班」「少数民族資料情報集約・分析班」「書誌情報コントロール・整備班」の3班にわけ活動をおこなった。

3年間に推進してきた内容は、「各国の母語使用状況に係る情報交換とそれによるDB仕様策定の検討」「DBプロトタイプ版の仮運用による検索項目有効性の検証」「東南アジア大陸部少数民族語資料目録DB」公開」「DB利用による少数民族の言語文化事象の分析」である。進捗過程において、地域研究者、図書館員、情報技術者が、Backlog(課題の洗い出し)やSlack(手軽な議論)といったITツール、隔月ごとに開催する研究会において連携や情報共有を行ってきた。

#### 4. 研究成果

本研究期間中の研究経緯とその成果について、研究調書に挙げた年次計画で挙げた項目にそって概括する。

##### 各国の母語使用状況に係る情報交換とそれによる DB 仕様策定の検討

初年度となる 2021 年度から 2022 年度にかけて、書誌情報コントロール・整備班を中心に、各分担者・研究協力者から寄せられた資料情報をもとに、Google クラウドシステムを活用した DB 入力フォーマットを策定し、メンバー間で試験的に入力し仕様の改良を重ねた。また、ラオスの海外研究協力者に試験入力を依頼し、その結果を仕様で反映させた。資料情報集約については、主にミャンマー少数民族チン族・シャン族の事例を元に、課題として浮かんできた母語と使用文字の乖離、インターネット上の情報源保存について対応可能な入力フォーマットを策定した。さらに、出版物の文献索引を資料情報源として使用することとし、ベトナム研究専門書から廃刊となった逐次刊行物資料情報を収集した。

図書館総合展 2021 のポスターセッション「東南アジア逐次刊行物データベース連携ネットワーク」(<https://www.libraryfair.jp/poster/2021/46>)では、日本・東南アジアの図書館状況に関する取り組みを動画で紹介し、国際ワークショップ「図書館からの声：ポストパンデミックの時代を見据えて(2022年2月3日：10カ国105名、20機関参加、<https://sealib.cseas.kyoto-u.ac.jp/workshop-20220203/>)」を開催し、本研究プロジェクトが開発している DB を紹介するとともに、情報交換、関係機関との連携・強化に務めた。

最終年度となる 2023 年度には、「東南アジア逐次刊行物データベース」ポータルサイトを開設し、東南アジア逐次刊行物の資料所在を把握するために、より広く情報提供を受け入れる体制を構築した (<https://sealib.cseas.kyoto-u.ac.jp/information-provision/>)。

##### DB プロトタイプ版の仮運用による検索項目有効性の検証

初年度(2021年度)に、DB 仕様策定をする上で視覚的に確認できるように「3国版」をベースとして、DB プロトタイプ版をプロジェクトメンバー限定で共有した。2022年度以降、DB を公開するまで、このプロトタイプ版を元に検討を重ね、入力フォームの必須項目見直し、冊子媒体とオンライン情報を区別できる「情報源の種別」項目を新設、タイ語 UI を追加するなど仕様の改良を重ねた。

##### 「東南アジア大陸部少数民族語資料目録 DB」公開

「3国版」をベースに東南アジア大陸部少数民族データを加え、京都大学東南アジア地域研究所図書室およびアジア経済研究所図書館が所蔵する逐次刊行物データを加えた「東南アジア逐次刊行物総合目録データベース第3版」(<https://sealib.cseas.kyoto-u.ac.jp/db/>)を 2023年9月に公開した。また同月、東南アジア逐次刊行物データベースポータルサイト (<https://sealib.cseas.kyoto-u.ac.jp/>) を開設し、DB のこれまでの歩みや関連する研究活動について紹介している。

DB は、『東南アジア逐次刊行物の現在』第2篇 (<https://sealib.cseas.kyoto-u.ac.jp/activity/publications/seap2/>) で逐次公開済み、2024年度中に京都大学学術情報リポジトリ(KURENAI)で公開予定)で紹介した逐次刊行物の情報を追加して、「東南アジア逐次刊行物総合目録データベース第3.1版」(2024年3月公開)へと刷新した。掲載情報数は、目録情報 3,196点 13,752点、書誌情報 5,663点 17,259点となり、その数を大きく増やすこととなった。

技術面では、Research small Data Alliance (<https://rsda.mydatabase.jp>) が主催する国際ワークショップにおいて DB の開発手法を紹介した(2024年3月6日)。2024年7月開催の SEASIA 2024(国際会議)においても紹介する予定である。なお、京都大学東南アジア地域研究所図書室とアジア経済研究所図書館の逐次刊行物データをインポートするにあたり、既存データとの統合や書誌情報の統一などの課題もあり、データ共有や確認が容易である Google クラウドシステム内の Google スプレッドシートの検索機能(QUERY 関数のよう

な DB 検索として利用できる SQL クエリによるデータの絞り込みなど含む)を大いに活用した。

DB 利用による少数民族語の言語文化事象の分析



図 2 「東南アジア逐次刊行物データベース」ポータルサイト (<https://sealib.cseas.kyoto-u.ac.jp/>)

分析にあたって、ここ 10 年の東南アジアおよび東南アジア大陸部少数民族における逐次刊行物についての出版状況について、それらを研究している若手研究者、ジャーナリスト、現地在住の邦人、また実際に現地で編集や刊行に携わった方々との協力により、状況把握に努めた。具体的には、少数民族における定期刊行物の冊子体は、国の体制転換等政治情勢、新型コロナウイルスの影響などによって、継続性できずいつのまにか終了している、あるいは SNS などインターネットにおける公開、Telegram（一定期間がすぎるとデータが消える）など秘匿性の高いツール配下で地下に潜っているなどの現状を改めて浮き彫りにすることができた。また DB 内の少数民族言語に着目した分析においては、少数民族ごとに様々な特徴がでていることもわかった。これらの内容については、2013 年に刊行された本研究プロジェクトの発端に係る『東南アジア逐次刊行物の現在』（長らく絶版。2021 年度に本プロジェクトにおいて再刊：<https://repository.kulib.kyoto-u.ac.jp/dspace/handle/2433/267914>）の第 2 篇として、2024 年度中に京都大学学術情報リポジトリ（KURENAI）にて公開する予定である。なおそれに先立ち、「東南アジア逐次刊行物データベース」ポータルサイト（<https://sealib.cseas.kyoto-u.ac.jp/>）を開設し（2023 年 9 月）、個別論考を先行的に公開している（<https://sealib.cseas.kyoto-u.ac.jp/activity/publications/seap2/>）。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計12件（うち査読付論文 4件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 12件）

1. 著者名 小島 浩之、矢野 正隆	4. 巻 60
2. 論文標題 漢字・字喃經典への料紙調査の応用	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 東南アジア研究	6. 最初と最後の頁 17~39
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.20495/tak.60.1_17	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -
1. 著者名 矢野 正隆、小島 浩之、大野 美紀子	4. 巻 60
2. 論文標題 付録 京都大学東南アジア地域研究研究所蔵「景福寺資料」目録	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 東南アジア研究	6. 最初と最後の頁 58~70
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.20495/tak.60.1_58	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -
1. 著者名 HIRANO, Ayaka	4. 巻 2
2. 論文標題 Terms for 'elder brother' and 'elder sister' in Kra-Dai	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 地理言語学研究	6. 最初と最後の頁 153-164
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -
1. 著者名 ENDO Mitsuaki, TOMITA Aika, HIRANO Ayaka	4. 巻 2
2. 論文標題 Wheat' in Kra-Dai	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Linguistic Atlas of Asia and Africa	6. 最初と最後の頁 13-14
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 HIRANO, Ayaka	4. 巻 2
2. 論文標題 Taro' in Kra-Dai	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Linguistic Atlas of Asia and Africa	6. 最初と最後の頁 113-114
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 小林磨理恵	4. 巻 -
2. 論文標題 『アジアの動向』オンライン公開 インターネットがない時代の徹底した情報収集	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 ライブラリアン・コラム	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 小林磨理恵	4. 巻 443
2. 論文標題 すべての人に情報を : アジア・オセアニアの図書館とSDGs	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 カレントアウェアネス-E	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 大野 美紀子	4. 巻 60
2. 論文標題 序 特集に寄せて	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 東南アジア研究	6. 最初と最後の頁 5~16
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.20495/tak.60.1_5	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Hirano, Ayaka	4. 巻 15
2. 論文標題 The Split of Proto-Tai Voiced Stop Consonants in Nung of Trang Dinh District	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Papers from the 30th Conference of the Southeast Asian Linguistics Society (2021)	6. 最初と最後の頁 25-32
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 菊池 泰平	4. 巻 59
2. 論文標題 ミャンマー公定史におけるバンロン民族団結史像の形成	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 東南アジア研究	6. 最初と最後の頁 290 ~ 320
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.20495/tak.59.2_290	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 小林磨理恵	4. 巻 -
2. 論文標題 (連載: 途上国・新興国の2020年人口センサス) 第2回 カンボジア 開発10年の指標と道標	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 ライブラリアン・コラム	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 小林磨理恵	4. 巻 -
2. 論文標題 (連載: 途上国・新興国の2020年人口センサス) 第4回 ミャンマー 揺れる社会の静かな痕跡	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 ライブラリアン・コラム	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計16件（うち招待講演 2件 / うち国際学会 6件）

1. 発表者名 HIRANO, Ayaka,
2. 発表標題 System of 'Sibling' terms in Kra-Dai
3. 学会等名 The 5th meeting of Studies in Asian and African Geolinguistics
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 小林磨理恵
2. 発表標題 レファレンス力の源とは何か アジアのレファレンス経験から考える
3. 学会等名 第3回図書館総合展フォーラム
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 小林磨理恵
2. 発表標題 サブジェクト・ライブラリアンとカタログの両立に向けて
3. 学会等名 令和4年度アジア情報関係機関懇談会（招待講演）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 大野美紀子
2. 発表標題 グローバルスタンダードとローカルノリッジを繋ぐ：図書館を通じた東南アジア地域研究の実践
3. 学会等名 2022年度東京大学経済学部資料室フォーラム（招待講演）
4. 発表年 2023年



1. 発表者名 YANO Masataka, KOJIMA Hiroyuki
2. 発表標題 Types of Paper Used for Religious Documents in Southeast Asia: A Survey of Writing Papers in Chinese Characters and Chu Nom
3. 学会等名 The 12th International convention of Asia scholars (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 小島浩之・矢野正隆
2. 発表標題 料紙調査からみた『在泰京越南寺院景福寺所蔵漢籍字喃本』の基礎的考察
3. 学会等名 東南アジア学会第103回研究大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Noemi-Tiina Dupertuis
2. 発表標題 Mothertongue Education Movements and Local Identity-Making among the K'cho Chins of Kanpetlet Township, Myanmar
3. 学会等名 BURMAVISION, 14th International Burma Studies Conference (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 和田理寛
2. 発表標題 モンのジャータカ朗誦文化：重なりあう文化圏
3. 学会等名 科研「声の実践によるテキスト共同体」(村上忠良代表)研究会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Hirano, Ayaka
2. 発表標題 The Split of Proto-Tai Voiced Stop Consonants in Nung of Trang Dinh District
3. 学会等名 30th conference of Southeast Asian Linguistic Society (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 平野綾香
2. 発表標題 ヌン語(ランソン省チャンディン県方言)の類似並列表現
3. 学会等名 第2回ベトナム語研究会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Endo, Mitsuaki, Aika Tomita; and Ayaka Hirano
2. 発表標題 Crop terms in Kra-Dai
3. 学会等名 4th meeting of Studies in Asian and African Geolinguistics
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 菊池泰平
2. 発表標題 ミャンマーの地方社会および少数民族による刊行物の収集と出版状況の分析 草の根多元主義を考える
3. 学会等名 令和3年度(FY2021)東南アジア地域研究所共同利用・共同研究拠点「東南アジア研究の国際共同研究拠点」年次研究成果発表会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 大野美紀子
2. 発表標題 The Process of Vietnamese Immigration in Thailand Assumed from the Inscriptions on Tombstones in the Vietnamese Buddhist Temple in Bangkok
3. 学会等名 ICAS 12 (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 大野美紀子
2. 発表標題 東南アジアにおける宗教文献研究の意味とその将来性 - 在泰京越南寺院景福寺所蔵漢籍字喃本調査結果を通じて -
3. 学会等名 東南アジア学会第103回研究大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 木谷公哉
2. 発表標題 データベースの構築
3. 学会等名 図書館からの声：ポストパンデミックの時代を見据えて (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 小林磨理恵
2. 発表標題 アジア資料の収集
3. 学会等名 図書館からの声：ポストパンデミックの時代を見据えて (国際学会)
4. 発表年 2022年

## 〔図書〕 計4件

1. 著者名 岩井 美佐紀	4. 発行年 2023年
2. 出版社 明石書店	5. 総ページ数 440
3. 書名 現代ベトナムを知るための63章【第3版】	

1. 著者名 和田 理寛、小島 敬裕、大坪 加奈子、増原 善之、下條 尚志、杉本 良男	4. 発行年 2021年
2. 出版社 風響社	5. 総ページ数 204
3. 書名 東南アジア上座部仏教への招待	

1. 著者名 神谷俊郎（共著）	4. 発行年 2022年
2. 出版社 丸善出版	5. 総ページ数 430
3. 書名 世界の公用語事典（「ズールー語」の項目p350-353）	

1. 著者名 木谷公哉ほか（東南アジア逐次刊行物プロジェクト）	4. 発行年 2022年
2. 出版社 京都大学東南アジア地域研究研究所日ASEAN超学際研究プロジェクト	5. 総ページ数 144
3. 書名 東南アジア逐次刊行物の現在 --収集・活用のためのガイドブック	

## 〔産業財産権〕

〔その他〕

東南アジア逐次刊行物総合目録データベース  
<https://sealib.cseas.kyoto-u.ac.jp/libraryfair2021/>  
 東南アジア逐次刊行物データベース構築研究会  
<https://www.facebook.com/sealibdb>  
 東南アジア逐次刊行物総合目録データベース  
<https://sealib.cseas.kyoto-u.ac.jp/>  
 東南アジア逐次刊行物データベース連携ネットワーク  
<https://www.libraryfair.jp/poster/2021/46>  
 図書館からの声：ポストパンデミックの時代を見据えて  
<https://kyoto.cseas.kyoto-u.ac.jp/event/20220203/>  
 東南アジア逐次刊行物データベース構築研究会  
<https://www.facebook.com/sealibdb>

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	和田 理寛  (Wada Michihiro)  (70814325)	神田外語大学・外国語学部・准教授    (32510)	
研究分担者	大野 美紀子  (Ono Mikiko)  (80406701)	京都大学・東南アジア地域研究研究所・准教授    (14301)	
研究分担者	矢野 正隆  (Yano Masataka)  (80447375)	東京大学・大学院経済学研究科(経済学部)・助教    (12601)	
研究分担者	小林 磨理恵  (Kobayashi Marie)  (90899618)	独立行政法人日本貿易振興機構アジア経済研究所・学術情報センター図書館情報課・課長代理    (82512)	
研究分担者	神谷 俊郎  (Kamiya Toshiro)  (00600107)	京都産業大学・研究機構・嘱託職員    (34304)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	菊池 泰平  (Kikuchi Taihei)	大阪大学大学院・言語文化研究科・大学院生	
研究協力者	平野 綾香  (Hirano Ayaka)	大阪大学・人文学研究科・大学院生	
研究協力者	デュベルテュイ ノエミ  (Dupertuis Noemi)	京都大学・アジア・アフリカ地域研究研究科・大学院生	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計1件

国際研究集会 図書館からの声：ポストパンデミックの時代を見据えて	開催年 2022年～2022年
-------------------------------------	--------------------

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------